

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 29日

栃木県知事
福田 富一 様

提出者

住 所 栃木県那須塩原市上中野10番地
氏 名 株式会社ブリヂストン 栃木工場
工場長 越智 正典
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0287-65-3211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ブリヂストン 栃木工場
事業場の所在地	栃木県那須塩原市上中野10番地
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	自動車タイヤ・チューブ製造業[1911]
②事業の規模	トラック・バス用、乗用車用タイヤ生産量 約5,200千本/年
③従業員数	989名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】 別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
主として廃プラになるが、製造工程にて仕損じた廃棄物の要因を分析し、関連する機能と連携し、原因除去を行うことで、廃棄物の削減を継続実施。			
② 計画	【目標】 別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
現状の対策を継続。			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 発生工程において分別を実施。種類により置場を定めることで、未分別を防止
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の対策を継続。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組) なし	
② 計画	【目標】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組) なし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t
(これまでに実施した取組) 焼却炉停止に伴い、全量社外処理化		
② 計画	【目標】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t
(今後実施する予定の取組) 現状の処理フローを維持		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t
	（これまでに実施した取組） ゼロエミッション可能な取引先との契約維持	
② 計画	【目標】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t
	（今後実施する予定の取組） ゼロエミッション可能な取引先との契約維持	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	（これまでに実施した取組） 社内ですら定めた基準に則り、処理業者の評価を実施。その評価に基づき、一定以上の評価となる取引先に委託し、かつ継続して企業訪問を行うことにより、不法投棄防止を図っている。（2020年度・2021年度はコロナ影響で未実施）	

② 計画	【目標】別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
現状の対策を継続。			
※事務処理欄			

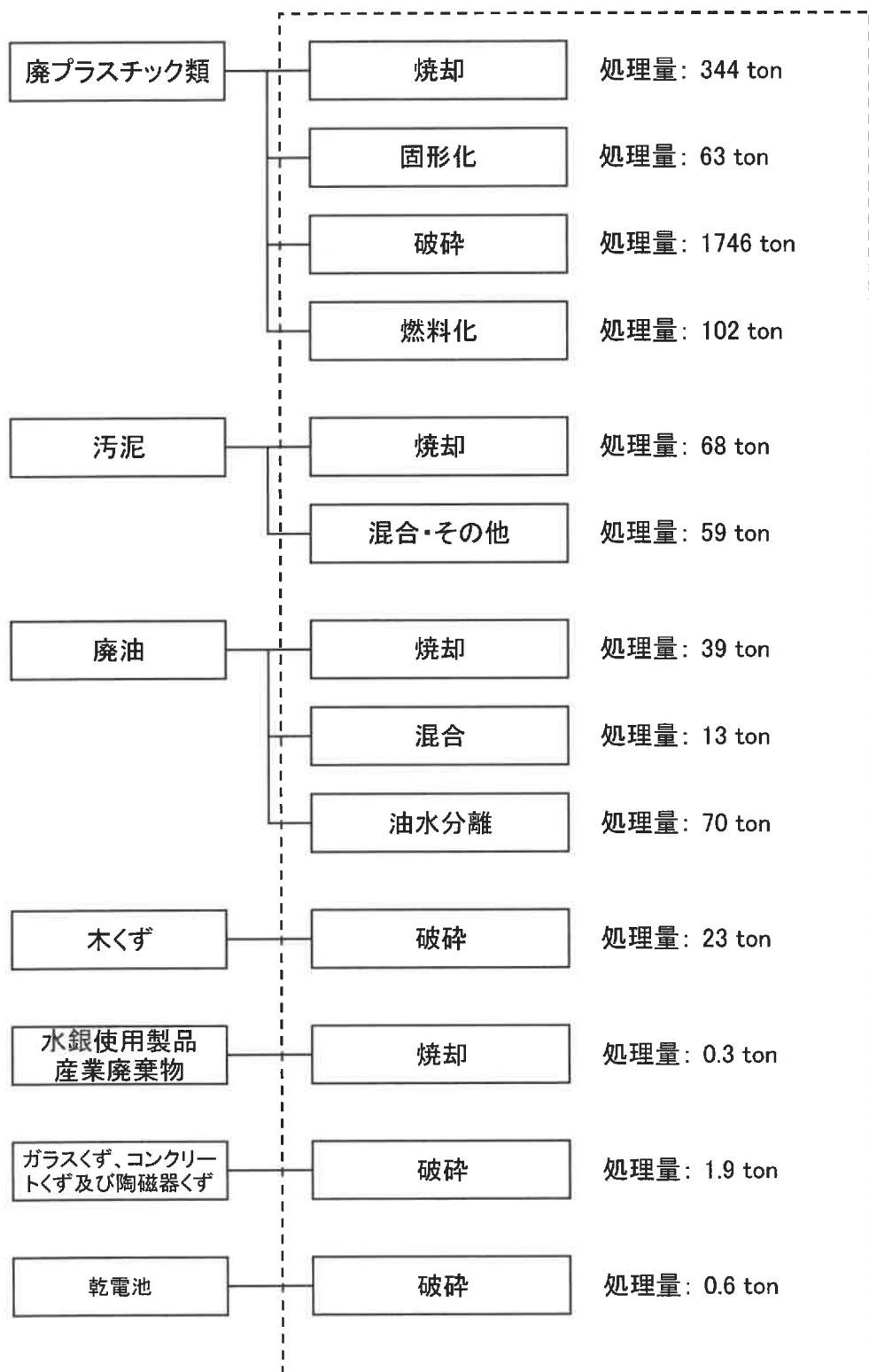
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

<産業廃棄物>

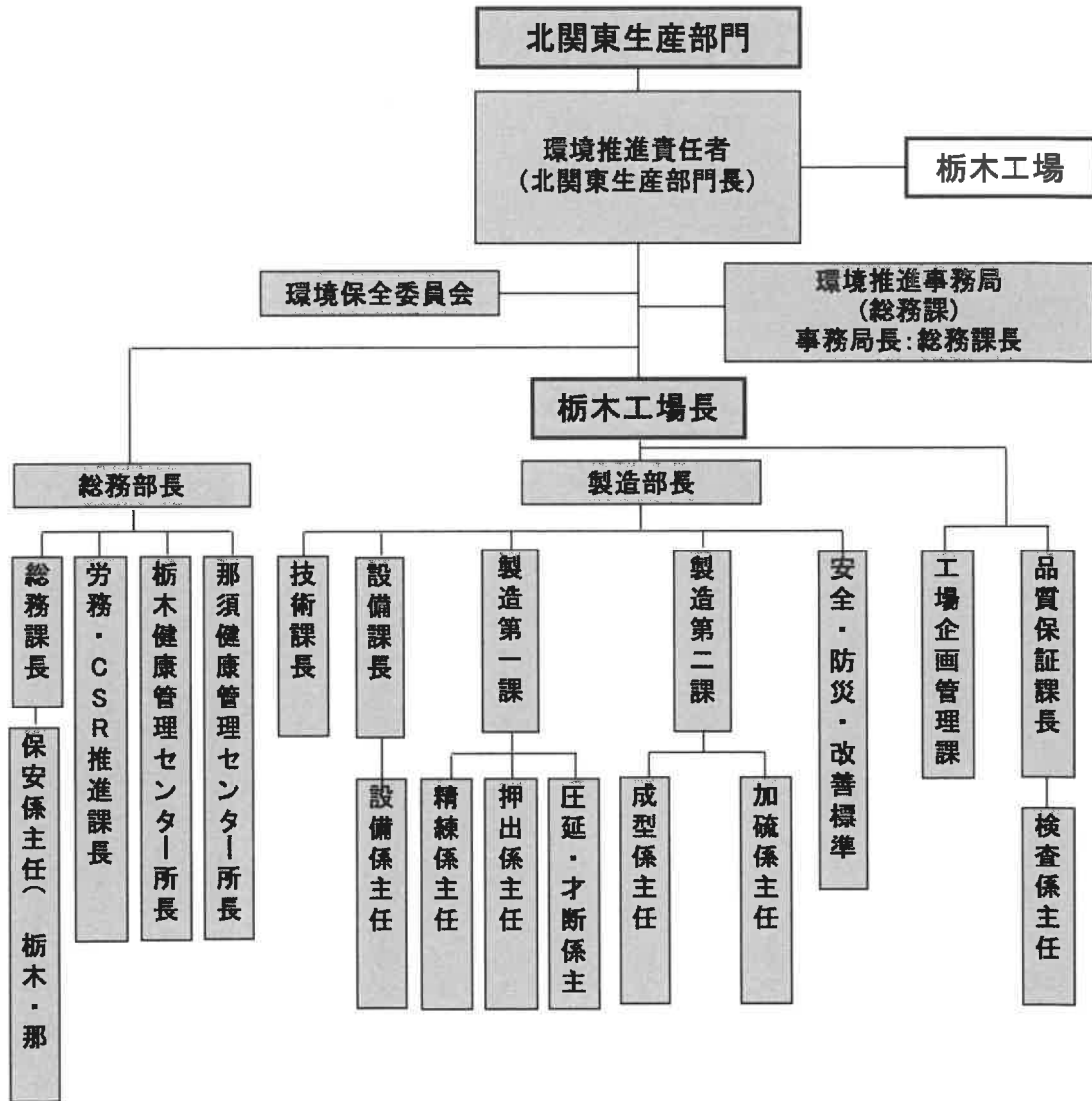
処理・処分

—— 廃棄物処理の流れ - - - 委託処理分の範囲



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 管理組織図



<主な法定管理者>

公害防止統括者	: 工場長
同代理者	: 総務部長
公害防止管理者	: 有資格者
同代理者	: 同上
廃棄物処理責任者	: 総務課長
特別管理産業廃棄物管理責任者	: 有資格者
廃棄物処理施設技術管理者	: 有資格者
エネルギー管理士	: 有資格者

別紙3
産業廃棄物の処理に関する事項

前年度<2022年度>実績

単位:t

廃棄物の種類	発生量	自社再生利用	自社中間処理	自社処分	全処理量	優良認定 処理業者	再生利用業者	認定熱回収業者	熱回収業者 (認定業者以外)
廃プラスチック類	2,255	0	0	0	2,255	986	1,731	180	320
汚泥	128	0	0	0	128	70	59	0	22
廃油	123	0	0	0	123	123	83	0	39
木屑	23	0	0	0	23	0	23	0	0
水銀使用製品 産業廃棄物	0.7	0	0	0	0.7	0	0.7	0	0
ガラスくず、コンクリートく ず及び陶磁器くず	1.9	0	0	0	1.9	2	1.9	0	0
乾電池	0.6	0	0	0	0.6	0	0.6	0	0
計	2,531	0	0	0	2,531	1,181	1,900	180	381

<2023年度>目標

単位:t

廃棄物の種類	発生量	自社再生利用	自社中間処理	自社処分	全処理量	優良認定 処理業者	再生利用業者	認定熱回収業者	熱回収業者 (認定業者以外)
廃プラスチック類	2,600	0	0	0	2,600	1,040	1,560	200	350
汚泥	130	0	0	0	130	72	61	0.0	22
廃油	130	0	0	0	130	130	88	0.0	70
木屑	25	0	0	0	25	0.0	25	0.0	0.0
水銀使用製品 産業廃棄物	0.5	0	0	0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
ガラスくず、コンクリートく ず及び陶磁器くず	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
乾電池	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2,886	0	0	0	2,886	1,242	1,735	200	442